

令和7年度 学校評価自己評価表（最終）

三次市立三次小学校

【ミッション（使命・存在意義）】  
 子供の命を守る 子供に生きる力をつける 子供も教職員も幸せになる  
 【学校教育目標】心豊かで、自ら学ぶ意欲のある子供の育成 ～みんなでつくるみんなの学校～

【達成度】＝達成値／目標値×100		【評価】A≥100, 80≤B<100, 60≤C<80, D<60									
領域	中 期 経 営 目 標	短 期 経 営 目 標	目標達成のための 主な方策	評価指標	目 標 値	中 間		年 度 末		結果と課題の説明	改善計画
						達成値	評価	達成値	評価		
確かな学力の育成	学力の定着・向上	基礎学力の向上	□学力調査を活用した実態把握・指導改善による実態把握・指導改善による学力の向上 □既習内容の確認・定着の時間の設定	・単元末テストにおける思考・判断・表現力の観点達成率 ・三次市学力到達度検査（全国平均との比較）	80%以上 14/16以上	79.9% 99.8	B	74.9% 93.6	C	【算数科の単元末テスト思考・判断・表現 74.9%（平均）】 ・15年が90%以上だったが、前期よりも達成率が下がった結果だった。考え方を説明する場を設定したことで記述問題の向上が見られたが、知識を応用することに課題がある。また、学習内容の難易度が上がったことや学習に向かう意欲及び学習環境等の要因によって、達成率が下がったと考えられる。 【三次市学力到達度検査 7/16】 ・算数科では、全国平均以上の学年が3学年あった。基礎問題を授業の初めに行うなど、これまでの取組によって成果が見られた。しかし、社会科は全学年全国平均以下だった。問題場面の把握が難しく、問われていることを正しく理解できていないと考えられる。	・学習に向かう環境・雰囲気を作る学級経営を行う。また、授業において、児童の実態に応じた支援を行うとともに、引き続き、基礎・基本を定着させるための取組をして知識・技能の向上を図ったり、思考する時間や考えを交流する時間を設けて思考力・表現力の向上を図ったりする。また、文章を正しく読み理解する力をつけていくために、基礎基本となる読み書きを大事にしている。
		育成すべき資質・能力の向上	□「主体性」「協調性」「表現力」を意識した単元構成の工夫 □聴き合い、伝え合う授業づくりや自分の思いを伝えることができる学級づくり	・総合質問紙調査（コミュニケーション能力、協調性、主体性）の項目で肯定的に答えた児童の割合	70%以上	81.7% 116.7	A	86% 122.8	A	【総合質問紙調査3観点（コミュニケーション能力、協調性、主体性）の平均 80%以上】 ・主体性は90%、協調性は83%、コミュニケーション能力は84%と、すべて目標の70%以上だった。前期に続いて探究的な学習の取組により、さらに向上が見られた。しかし、質問項目でみると、友達に意見を質問したり、他の人と同じ意見でも自分なりに考えて発言することを苦手としている児童が見受けられる。	・引き続き、友だちや先生との人間関係を築くとともに、自分の思いなどを伝えるも大丈夫という学級の雰囲気作りを行い、グループ活動等を通して、意見を言ったり聞いたり質問したりする経験を積めるよう、授業づくりを行う。そして、肯定的な評価をすることで、子供たちに自信を持たせる。
	豊かな心の育成	生徒指導諸問題の未然防止	□時間を守る、掃除、挨拶の徹底 □いじめの根絶及び未然防止の取組	・児童・保護者・教職員アンケートに関する項目（重点：挨拶・時間・掃除） 生徒指導上の諸問題の状況と対応 ・不登校傾向児童の改善傾向	75%以上 100% 100%	92.7% 123.6 100% 100%	A	92.2% 122.9 100% 100%	A	【挨拶・時間を守る・掃除 92.5%】 ・挨拶93.3%、時間を守る89.4%、掃除98.7%。児童自身の肯定度は非常に高くなっているが、挨拶をしても反応が無かったり、授業時間に遅れる姿も見られる。 ・暴言・暴力、指導無視、教室飛び出し等の問題行動がある。特に、暴力行為については、絶対に許されないことであるという教員としての対応を行っている。しかし、日々継続指導を行っているものの、大きな改善に至っていないことが課題である。 【不登校改善傾向 50%】 ・1学期時点で、不登校傾向児童は10名、その内5名は前年度と比べて欠席数が減少し、登校日数が増えている。学校への登校が難しく、教育支援ルームへ通室している児童や、保健室や教室のどちらで過ごすことを選択している児童もいる。 ・2名は今年度新たに不登校傾向となり、欠席数が増加傾向にある。この2名については、外部機関との連携を図り、登校できるよう支援している。	・どのような姿を目指すのかを明確にする。 ・生徒指導上の諸問題の未然防止に向け、安全・安心な学校づくりに向けた取組を重ねる。 ・問題発生時には、保護者連携も行いながら振り返り、次の行動の目標設定等、つなごりのある指導・支援を行う。 ・児童に伝わる言葉で指導する。 ・欠席が増加傾向にある児童への個別対応、その保護者への支援を行っている。また、外部機関（SC、SSW、教育支援ルーム、CS等）との連携も促している。
自律的な生活習慣の定着と体力の向上	児童会活動の活性化	□児童会熱血宣言によるめあての設定と振り返りによる成長の実感	・児童会・委員会活動の実施状況 ・児童アンケート「自己指導能力」に関する項目（自己認識・社会性）	80%以上 75%以上	100% 100% 88.5% 118	A	100% 100% 84.7% 112.9	A	・どの委員会も常時活動に取り組み、学校をよくすることを目指して活動している。しかし、児童が教職員から与えられた仕事をこなすだけになってしまっているものもある。活動内容を主体的なものに、学校全体がよりよくなることを意識した活動を増やしていく必要がある。 【自己指導能力：84.7% 自己認識 92.6%、社会性 78.7%】 ・社会性に関わる項目については、「自分の思っていることと、考えていることと、周りの人に話しかける」の質問において、中学年の肯定度が低くなる傾向がみられた。	・児童が主体的に活動できる環境づくりや手立てを行う。 ・児童が自分の考えを伝える場を意図的に仕組んでいく。	
健康な体の育成	基本的な生活習慣の充実	生活づくり週間の取組	□生活づくり週間の取組 ・中学校定期試験期間中に生活づくり週間の取組（起床時刻・就寝時刻・朝食摂取・メディアコントロール） ※みよし学園健康教育部会の取組を中学校区で共有して実施する。	・メディアコントロールアンケート ・保護者を含めた啓発の機会の設定・実施	80%以上 100%	87% 108.6 100% 100%	A	92% 115.0 100% 100%	A	【メディアコントロールアンケート 92%】 ・11月に実施した生活づくり週間の取組では、アンケート実施前に、メディアコントロールについてみよし学園健康教育部会より啓発をした。インフルエンザの流行時期と重なっており、提出した児童(9月67.0%→11月92.0%)が減少していたが、メディアコントロールの目標を決めて取り組んでいた。また、目標に設定した就寝時刻を守らうとする児童が1回目93.2%から2回目97.0%と増えたと。学年が上がるとともに目標の時刻より遅く、体調不良を訴えることがあるため、継続した生活習慣定着の指導が必要である。 【保護者を含めた啓発の機会の設定・実施 100%】 保護者啓発として、保健たよりや体調不良等の個別対応時に話しているが、11月の学級懇談会で家庭でのSNSやメディアの使い方について話題にする機会をもった。2月末の地域懇談会で家庭でのメディアの使い方を交流し、メディアの身体的な影響だけでなく、心理的な影響についても保護者と共通認識にたてるように連携したい。	・生活づくり週間の期間の見直しをし、年間をとおして生活習慣づくりやメディアコントロールの大切さについて考えさせる機会をつくる。（みよし学園健康教育部会や委員会活動で資料作成） ・保護者啓発の機会をつくり、家庭でのメディアの使い方について一緒に考えるよう連携する。（外部講師を招いた研修・学年懇談会・保健たより・地域懇談会など）
		健康安全意识と体力の向上	□体育科、体力づくり運動の工夫と充実 ・主運動と関連した体づくり運動の計画実施 ・委員会等を利用した全校での体力づくりの取組	・体力・運動能力調査結果（国・県平均比） ・体育アンケートの実施	80%以上	5.5% 6.9 89.5% 111.9 56	D	5.5% 6.9 93.5% 117 65.4	C	【新体力テスト(5年生) 女子の握力以外の項目は県平均・全国平均より下回っている】 ・タグラグビーや球技など楽しんで運動できる工夫や体育委員会の「一緒に遊びたいジャンパー」のイベントや遊びの紹介の動画を作成して、運動の動機付けをした。 【体育アンケート「運動が好き」93.5%、「体育の授業が楽しい」97.0%】 ・「運動が好き」が9月89.5%→11月93.5%、「体育の授業が楽しい」が9月97.0%→11月97.0%と運動を好む児童が多くなっている。体育の授業では、グラウンドが制限されているが、塙の工夫をして十分な運動量を確保する工夫をしたり、楽しく体を動かすことを目標としたりして、限られた場面で短期間で集中して取り組めるように工夫をした。 ・運動でも体を動かすことの楽しさや仲間とともに最後までやり切れたことを実感している児童が多かった。	・運動能力の向上とともに、運動が苦手な児童にも運動の楽しさを味わわせるために、体力づくり運動を継続して行ったり、スモールステップで感覚・技能を身に付けさせる。できたことやチャレンジしている姿を積極的に褒めることで自信を持って活動できるよう支援する。 ・本年度は、グラウンドが整備され使用できる広さが確保できたため、道具を活用した運動や足の運動の場を設定し、十分な運動量を確保したい。 ・運動会で達成感や仲間と協力することで得た成功体験などを生かすことができるように、来年度も、児童会や体育委員会と連携して体力づくりに取組む。
信頼される学校	学校・家庭・地域が連携した魅力ある学校づくりの推進	小中一貫教育の充実・発信	□各学年1回以上、地域学校への探究型カリキュラムの実施	・探究型カリキュラムの実施・改善の取組（児童・教職員アンケート） ・探究型カリキュラムに係る情報発信	80%以上	100% 125 100% 100%	A	100% 125 100% 100%	A	【探究型カリキュラムの実施・改善の取組 100%】 探究型カリキュラムの実施は、作成したものを修正、改善しながら、後期も、全学年実施した。 【探求カリキュラムに係る情報発信 100%】 ・探究型カリキュラムに係る活動の情報発信については、各学年1回以上、通信等で学習内容を保護者へ伝え、県指定事業でも県内を中心に発信した。	・今後も、地域とつながる探究型カリキュラムを実施しながら、地域の良さを学び、児童の学力向上へ努めたい。
		地域から学校への満足度・信頼度の向上	□学校・学級だより等やHPについての情報発信	・「学校が楽しい」と思う児童・保護者の割合 ・学校・保健・生徒指導通信等の計画的発行とホームページ更新	80%以上 1回以上	95.9% 119.8 79.1% 79.1	B	91.5% 114.4 88.8% 88.8	B	【「学校が楽しい」と思う児童 %、保護者:91.5%】 アンケートでの肯定的評価の割合は、良かった。しかし、アンケート回収率は、紙での提出も求めているが、あまり良くない。 【情報発信 学校だより3回、保健たより5回、生徒指導通信2回発行】 ・その他、学年だより、Tetoruを活用して、情報発信、連絡等を行った。ホームページは、2か月に1回程度更新。	・「学校が楽しい」と思う保護者アンケートの割合は高かったが、アンケート回収率が上がっていない。校内で、検討する。 ・情報発信を計画的に行うことができるよう、計画、分担を決めて実施していきたい。